

秦野市青少年指導員だより

発行 秦野市青少年指導員連絡協議会

編集 秦野市青少年指導員連絡協議会広報委員会

第45号



歓迎アーチでの温かい出迎え

この夏も、様々な場面で、
子ども達とともに活動しました。

この夏、秦野の恵まれた環境の下、表丹沢野外活動センターや総合運動公園、また各地区で、子ども達の元気に活動する声が聞かれました。その様々な場面を支える青少年指導員の姿を、共に活動してくれる中学生・高校生ボランティアの活躍と併せて紹介します。

姉妹都市 青少年交流キャンプ

七月十九日(土)・二十日(日)の二日間、秦野市表丹沢野外活動センターを拠点に、姉妹都市青少年交流キャンプが、諏訪市二十八名・秦野市二十四名の子ども達が参加して開催されました。

この事業での指導員の役割は、直接子ども達の指導に当たる中学生・高校生のジュニアリーダー達を、事故がないよう見守ることにあります。

県立秦野戸川公園での開会式。セレモニー終了後は、秦野市のジュニアリーダーに任せます。班ごとのアイスブレイキングで、子ども達の心を解きほぐしていく彼らの手際良さには脱帽です。ただ私たちが事前に下見をして準備した昼食後の野外センターまでのウォークラリーを、あいにくの雨のために諦めざるをえなかったことが残念でした。

野外センター到着後は、活動棟での班対抗ゲームで連帯感を深めてから炊事棟での夕食準備。今年は飯盒炊飯とカレーに加えて、ピザを作りました。生地から手作りし、耐火煉瓦を重ねて作った即席の竈(かまど)で焼き上げたピザは大好評でした。

夕食後は、雨天のため、活動棟でのキャンドルファイヤー。丹沢の山の火の神から授かった松明の火を、中央のツリーに、また一人ひとりの手もとのローソクに移して展開される幻想的な世界を堪能しました。

翌日のメインは、海のない諏訪市の子ども達が待ちわびた大磯海岸での海水浴。前日の雨が嘘のような快晴の下、子ども達は大はしゃぎでした。こちらは砂浜で監視役。でも一緒に海に入ってくれたジュニアリーダーのおかげで、みな心おきなく海を満喫できました。

砂浜での昼食後、お別れのセレモニー。両市代表が友情宣言を交わし、それぞれのTシャツにメッセージを書き込みました。関係者からご挨拶を頂いた最後に、ジュニアリーダーの代表が、自分達を支

えてくれた関係者に対する感謝の気持ちを述べていました。その気持ちが、「来年もまた会おう」と誓いあっていた子ども達の思いを、きつと実現してくれると思います。

ジュニアリーダーとして

平成 26 年 12 月

高校一年生 小田奏絵



姉妹都市交流キャンプに、ジュニアリーダーとして初めて参加しました。事前研修もありましたが、これまで一からゲーム指導を担当したこともなく、また子ども達と一日中一緒にいるということ自体初めてだったため、不安で一杯でした。

迎えたキャンプ当日。子ども達とのアイスブレイキングで自己紹介や色々なゲームをやっていくうち、少しずつその場の空気に慣れていききました。任されたゲーム「木の中のリス」の説明・進行では、大きな声・大きな動作で、とにかく子ども達に分かりやす

く伝えることを心がけました。夕食のカレー作りでは、私が指示しなくてもきばきと調理する班の子達に驚かされました。薪を使う炊飯にかかりつきりになってしまっていたら、その間にしっかりとカレーづくりを進めてくれていて、こっちが助けられました。班全員が助け合う中、一人ひとりの長所も見えてきました。キャンプドルファイヤーでは、たくさん反省させられました。全体を見て、ゲームに入っていない子がいたら声をかける、手をつないで円を作るときには自分から入っていくといった気配りが大切だと分かっているのに、まだまだゆとりが持てませんでした。



優しい灯りに包まれて

二日目の海水浴には、同じ失敗をしないようにと臨みました。ところが子ども達の方

から私に貝殻を持ってきてくれたり、「一緒に遊ぼう」と言ってきたり、一緒に遊ぼう、いつか自然に、一緒に楽しもうという気持ちにさせられていました。

この二日間はとても貴重な体験でした。でも実は、私子ども達に教えてもらったことの方が多かったのかも知れません。

茅ヶ崎市・秦野市 青少年交流事業

この交流事業の目玉は、茅ヶ崎海岸での地引き網です。八時に秦野市役所に集まった市内の小学校高学年の児童三十名がバスで茅ヶ崎海岸へ移動しました。

現地で同市の二十八名と合流して開会したのですが、七月二十九日(火)・三十日(水)の平日開催だったため、指導員は四名のみの参加でした。六名の茅ヶ崎市の指導員・子ども会連絡協議会の方々と共にお手伝いしました。

茅ヶ崎市の網元の下、地引き網を引きました。胸びれをうねらす大きなエイに驚かされましたが、殆どが小ぶりの魚ばかりで、子ども達は

ちよつとがっかりしていたのかな。ところが夜の野外炊飯時にカレーに添えられた、網元から頂いたシラスや、スタツフが分担してさばいた刺身や唐揚げに、こちらが驚くほど手が伸びていました。



大漁期待!

二日間を通して、何より五名の市内ジュニアリーダーの活躍があったからですが、少しは貢献できたのかなという思いです。

秦野・パジュ友好 青少年相互交流事業

韓国坡州(パジュ)市との国際交流事業が行われたのは、たばこ祭で賑わう九月二十七日(土)・二十八日(日)の二日間でした。

金浦空港を当日の十二時過ぎに発った坡州市中学生二十

名を「アンニョンハセヨ」、市内十一名の中学生が野外活動センターに出迎えました。二日目は東海大学への韓国からの留学生三名も加わり、野外炊事後は、たばこ祭見学、打ち上げ花火見学と市内観光がメインになるため、指導員は二日目昼までの手伝いと後片付けでした。



大活躍のサポートスタッフ

初日のサポートスタッフがジュニアリーダーOB一名、通訳ボランティアの大学生一名と少なかったため、私たち指導員四名もキャンプファイヤーでは年甲斐もなく、大奮闘しました。数日後、身体の節々がなんと痛かったことか。でも、片言の英語を使って交流を深める両市中学生の楽しそうな笑顔に、勇気づけられました。

交流キャンプ以外にも、各地区でユニークな活動が展開されています。以下は、その中のいくつかの紹介です。（今回紹介できなかった地区は次年度以降に）

本町地区 チャレンジ ランキング&手作り

夏休みも終わりに近づいた八月二十三日（土）、末広ふれあいセンターにおいて「チャレンジランキング&ピザ作り」が行なわれました。

当日は十二名の小学生が集まり、先ず三角巾とエプロンを身に付け二人一組でピザ生地作りに挑戦。ポリ袋に入れた材料を小さな手で、もみもみ、モミモミ、低学年の子には時々指導員がお手伝いしました。なかなか混ざらない粉も十五分程でもちもちとした状態になり、発酵のため一時間程寝かせます。

その間にチャレンジランキングに挑戦です。これは色々なゲームを行ない、それぞれの結果を記録します。傘パラス、点取りピンポン、ホース輪投げ、一分間じゃんけん、キャップ飛ばし、洗面器お手

玉投げ、というものです。例えば点取りピンポンは箱の中のピンポン玉を三個掴み、書いてある点数を合計します。



美味しいピザは出来るかな

当日は雨模様のためピザ生地の発酵があまり進まず、ピザ作りが少し遅れてしまいました。それでも思い思いにトッピングをし、オーブンで焼き上がるまでの待つ時間を、何とかゲームでつなぎ、ようやく焼き上がったピザを、子ども達は満足そうにゆつくりと味わっていました。

並行して、指導員だけで段ボールを使ったピザ焼きに挑戦しましたが、想像していたのと違って炭の状態や焼き上がり難し、一人が掛かり切りになってしまいました。最初は自由行動をしていた子どもも最後は皆と一緒に笑顔で帰り、ホッとしました。

西・上地区 堀小PTA ふれあいバザーお化け屋敷

十一月八日（土）に、堀川小学校の「PTAふれあいバザー」に参加しました。

この行事は、地域の子ども達とのふれあいを願ってPTAのみなさんが毎年企画なさっているもので、バザー・模擬店・ステージ発表と工夫を凝らした構成になっています。その中でも、子ども達一番のお楽しみ「お化け屋敷」が我々青少年指導員の担当です。

一週間前から、二台の軽トラックを使って大道具を搬入し、準備を始めます。会場となる教室の窓をダンボールで目張りして、電動ドリルを片手に手際よく通路の骨組みを組み立てていきます。



手際よく作業

小学校でのイベントとしては、かなり本格的な「お化け屋敷」と言えるでしょう。その後一週間かけて、PTAの役員さんにお手伝いいただき、小道具をセットして「お化け屋敷」が完成します。

そして迎えた当日。お昼のスタートに向けて、朝から着々と準備が進められます。

「お化け屋敷」は、お化けがいなけりや始まりません。サダコ、オルガンの女、白衣お化けなど、お化け役のPTAの役員さんを、メイク担当の青少年指導員が一人ひとり変身させていきます。それをみんなで見ている光景は、まるでお化けメイクの講習会です。完成された顔を見たみんなに、「怖いけど似合っている。」と言われ、うれしいやら、悲しいやら。

正装なお化けが位置に着き、BGMが流れ、いよいよスタートです。廊下で行列を作って待っていた子ども達が入っていきます。「こんにちは」と大きな声が入っていく男の子たち、三人がひとかたまりのようになって入っていく女の子たち。中からは、暗闇を通していろんな声が聞こえてきます。



三人なら怖くない

PTAと青少年指導員が子ども達のためにと思いを込めた「お化け屋敷」は、その思いが強すぎたのでしょうか。泣き出してしまったり、怖くて足が進まず入口で帰ってしまったりした子が何人かいました。ごめんなさいね。

逆に、笑顔で出てきた三年生の男の子たちは、ガイコツが、武器が、トンネルがと、興奮しながら一斉に話しかけてくれました。その目は、みんなキラキラと輝いていました。この目に接することが、青少年指導員をしていることの喜びの一つです。

今回怖くて入るのを断念してしまった子が、来年は元気に出口から出てきて、キラキラした目で話しかけてくれることを願いつつ、教室を復元して帰路に就きました。

秦野市 少年少女球技大会

八月二日(土)、秦野市少年少女球技大会(ドッジボール中央大会)第六十回記念大会が、市子ども会育成連絡協議会の主管で開催されました。

当日は雲ひとつなく晴れわたった絶好の球技大会日和。改修された秦野市陸上競技場に男子十二チーム・選手二百二名、女子六チーム・選手八十二名の子ども達が集結し、たくさんのお父さんお母さん方の声援の下、熱戦を繰り広げました。

青少年指導員は、審判員としてこの大会に協力しています。以下は、指導員一年目として今年初めて大会に参加した、新米審判員の個人的な感想です。

事前に、ルールの確認・ゲームの運営等の講習を重ね、また各地区大会での経験を積んで大会当日を迎えたのですが、内心はドキドキでした。しかし競技場に入って目にした、参加した子ども達の顔は、日頃の練習の積み重ねと地区予選を勝ち抜いた自信に満ち溢れ、何とも頼もしいもので

した。子ども達にとって、この夏の、いいきつと一生の思い出になるであろう貴重な大会に、審判員として参加していることの責任を改めて強く感じさせられました。その瞬間から、気を引き締め直して臨みました。

両チームのメンバー確認後、主審のホイッスルで試合がスタートします。子ども達が最高のパフォーマンスを發揮できるとする副審、線審、記録員、タイムキーパーの全員が一丸となり、テンポ良く試合が進行していきます。チームワークの大切さを切実に学んだ一日でもありました。



いくわよ!

毎試合後、勝ったチームの子ども達も、負けたチームの

子ども達も、私たち審判団に対して、お礼の挨拶を欠かすことがありませんでした。普段の生活の中ではあまり意識することがない「挨拶」の必要性について、逆に子ども達から学んだ気がします。

地域の学年の違う子ども達がチームを構成することで、試合中に六年生が勝利に向けて五年生や四年生の下級生を引く張る姿や守る姿、また、試合後に負けたチームの子ども達が流した熱い涙を目の当たりにして、この大会に向けた子ども達が、遊びを返上し真剣に練習に取り組んできた姿が何われ、久々に胸に熱くこみ上げる何とも表現できない感動を覚えました。

この大会を通じて、行事を運営する側としてのチームワークの重要性を学び、子ども達からは、何事にも真剣に取り組む素晴らしさと大切さを教えられました。子ども達の心に大切な思い出の一頁として刻まれるこの大会に、参加協力できたことは、何よりの喜びでした。また、子ども達からももらった感動を、これからの指導員活動のパワーの源としていきたいと思っています。

神奈川県 青少年指導員大会



吉川伸治県副知事も出席

十一月九日(日)、小田原市生涯学習センターけやきで、第四十七回神奈川県青少年指導員大会が「地域で育てよう、青少年の明るい未来」をスローガンに開催されました。吉川伸治神奈川県副知事、加藤憲一小田原市長にご出席いただき、地域の少年リーダー養成を目指す小田原市の活動「きらめきロビンフッド」についての発表のほか、鈴木一光氏の講演「社会的参照」大人が子どもを見守る意味」を拝聴しました。また当日、七期十三年の長きにわたる指導員としての功績を讃えられ、竹川伊佐子氏(現広報委員長)が、優良指

導員表彰を受賞されました。おめでとございます。来年は、平成二十七年十一月十五日(日)に相模原市「杜(もり)のホール橋本」で開催されます。

編集後記

秦野市青少年指導員だより第四十五号をお届けします。

私たち青少年指導員は今回紹介しましたように、いろいろな地区・いろいろな場所で開催されています。どうぞ皆様方の温かいご支援、ご声援をお願い致します。

《広報委員》

- ◎竹川 伊佐子(南)
- 須藤 輝明(西・上)
- 安藤 秀樹(本町)
- 林 良子(本町)
- 佐藤 典子(南)
- 相原 良雄(東)
- 内藤 早美(北)
- 菰原 幸二(大・鶴)
- 佐野 公宣(大・鶴)
- 宮永 敏昭(西・上)
- 久保 光弘(本部)
- ◎委員長 ○副委員長